

# 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所名	グループホーム フロイデ彦島		
所在地	山口県下関市彦島西山3丁目12番1号		
電話番号	083-261-5082	事業所番号	3570102362
法人名	社会福祉法人 松濤会		

訪問調査日	平成 21 年 5 月 18 日	評価確定日	平成 21 年 8 月 4 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番17号 山口県総合保健会館内		

## 【情報提供票より】

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員計	18 人
職員数	18 人	常勤 14 人 非常勤 4 人 (常勤換算 15.5 人)	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	3 階建ての	~ 2 階部分

### (3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 50,400 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	250 円	昼食	650 円
	夕食	600 円	おやつ	円
その他の費用	月額	12,600 円		
	内訳	光熱水費(9,600円) その他の日常生活費(3,000円)		

### (4) 利用者の概要 (4月1日現在)

利用者数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
	要介護 1	2	要介護 4	5	
	要介護 2	3	要介護 5		
	要介護 3	8	要支援 2		
年齢	平均 84.3 歳	最低	70 歳	最高	92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 医療法人社団 松濤会 彦島内科 歯科 つぐ歯科医院
-------------	---------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

### (優れている点)

利用者・家族の気持ちを大切に、一人ひとり個別の対応を丁寧に行われています。その日々のケアが、利用者の穏やかな表情と安心した生活につながっています。研修も段階に応じた外部研修の機会を、職務の一環として提供され、法人全体、内部研修と積極的に計画し参加されています。職員同士のチームワークも良く、働き甲斐のある職場となっています。

### (特徴的な取組等)

水族館の見学、音楽鑑賞(コンサート)、ふぐ祭り、サーカスなど、市内で行なわれるイベントに参加するなど外出の機会を多くもたれています。その時はおしゃれをしての外出でとても喜ばれています。

## 【重点項目への取組状況】

### (前回の評価結果に対するその後の取組状況)

評価結果を会議にかけ、その改善に向けて施設長も一緒に前向きに取り組まれています。数種類ある記録用紙を検討し、転記をなくし、経過が分りやすく、記入しやすい記録様式に検討されています。

### (今回の自己評価の取組状況)

各自が自己評価書に記入し、管理者と計画作成担当者がまとめられています。日々のケアの見直しと共に、全職員が問題点を共有し、改善に向けた取り組みを行なっています。

### (運営推進会議の取組状況)

メンバーは利用者1名、家族代表1名、児童民生委員1名、地域包括支援センター職員1名、施設職員で2ヶ月に1回会議を行なっておられます。評価結果、現状報告、法人・ホームの行事の計画・報告、意見交換を行いサービスの質の向上に活かされています。

### (家族との連携状況)

面会時や家族会、運営推進会議にはできるだけ家族との交流を持ち、意見や要望を聞いておられます。年2回利用者の日常や行事の様子を載せたホーム便りを送っておられます。来訪が困難な家族には電話やメールで近況報告をされています。

### (地域との連携状況)

日々の散歩時にできるだけ地域の方々に挨拶をするようにされています。少しずつ地域の方々からも声がかかるようになってきました。法人施設内の行事(夏祭り、クリスマス会、毎月のコンサートなど)を地域に案内し、地域の方々の参加があります。また地域行事(祭り、文化祭など)に参加し、出来るだけ地域の方々との交流の機会を多く持つようにされています。

## 評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>「総合福祉施設として、地域に貢献する」と言う法人の理念を基に、グループホームの理念「自分らしく 穏やかに 生きがいを 歓喜に」を作っているが、地域密着型サービスとしてのグループホームのあり方、理念の振り返りが十分にはされていない。</p>	<p>・地域密着型サービスとしての理念の見直し</p>
2 (2)	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>運営理念をホームに掲示し、毎月の全体会議や各ユニット会議、カンファレンス時に確認し、日々のケアに活かされるように取り組んでいる。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p><b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>複合施設全体の行事(夏祭り、クリスマス会、コンサートなど)は地域住民に案内しており、参加もある。地域活動(お祭りや文化祭など)に出かけたり、買い物や散歩時に地域の人々と声をかけ合っているが、なじみの関係とはなっていない。</p>	<p>・日常的な取り組みの工夫</p>
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p><b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>各自で自己評価書に記入し、管理者と計画作成担当者でまとめている。自分自身の日頃のケアの見直し、また全職員で取り組むことで、問題点の共有や改善に役立っている。</p>	
5 (10)	<p><b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>利用者家族代表、利用者代表、児童民生委員、地域包括支援センター職員、施設職員が参加し、2ヶ月に1回開催している。評価結果、現状報告、意見交換を行いサービスの質の向上を図っているが、多様なメンバーが今後期待される。</p>	<p>・会議参加メンバーの検討</p>
6 (11)	<p><b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>サービスについての課題などは、法人を通して市の福祉課、介護保険課、地域包括支援センターに相談し協力を得ている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会時や家族会時に、生活状況や健康状態の報告や出納簿・領収書の確認をしてもらっている。また、利用者の日常や行事時の写真をふんだんに載せたホーム便りを年2回送付し、遠方の家族には電話やメールでも様子を知らせている。	
8 (18)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	意見箱の設置、相談や苦情を受ける窓口、第三者委員、外部機関を明示し、利用時に説明している。苦情処理の手続きも明確に定めている。運営推進会議に家族代表が出席しており、また面会や家族会時に意見や要望を聞き、運営に反映させている。	
9 (20)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	外出支援や家族の要望などに柔軟な対応ができるように、常勤14名、非常勤4名の勤務体制となっている。緊急な場合は、勤務変更や法人本部からの代替・ユニット間の応援体制で、利用者や家族が安心できる体制を取っている。	
10 (21)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者が馴染みの職員による支援を受けられるように、できるだけ異動は最小限に抑える努力をし、今年度の異動は無い。処遇の改善や業務の見直しなど検討している。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	本人の希望を尊重し、また経験に応じて資格習得のための研修を計画的に参加できるようにしている。外部研修や法人内の研修・研究発表に積極的に参加し、復命や伝達を行なっている。ホーム内の研修も計画的に行なっている。	
12 (24)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会や下関ブロック研修会に参加し、地域の同業者と交流する機会を持っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p><b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>電話や来所相談時には本人・家族に利用前に体験を促し、ケアマネジャーからも情報をもらったり、また本人・家族と相談しながら、馴染みの関係を作りサービスを開始している。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p><b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>人生の先輩であり、尊敬の心を持ち、共同生活者という視点で、四季折々の変化に触れながら喜怒哀楽を共にし、学び支えあう関係を築いている。最高齢の92歳の利用者から生け花や花の管理の仕方、また他の利用者から刺し子、家事の仕方、生活の知恵など、多くの事を教えてもらっている。</p>	
<p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p><b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>入居時の情報、面会や電話時の家族からの思いや意見、日々の生活の中から発せられた何気ない言葉を記録にとどめ、利用者一人ひとりの思いや意向を把握するように努めている。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p><b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>計画作成担当者、担当職員を中心に、毎月カンファレンスを開催している。本人・家族から思いや希望、必要な関係者の意見を参考に、本人本位の計画になるように話し合っている。介護に関する記録用紙も、センター方式や様々な様式で検討を重ね、新しい様式で記録している。利用者がよりよく暮らすために支援できるように、職員全員で努力している。</p>	
17 (42)	<p><b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>3ヶ月おきに介護計画を見直している。また毎月サービス状況のモニタリングをし、変化が生じたときは、本人・家族の意見も取り入れ、見直し以前であっても現状に即した新たな計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p><b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>通院支援や希望による外出支援など、本人・家族の希望に添えるように、柔軟に支援している。音楽の好きな方の希望で、コンサートに行ったりしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用時に希望を確認し、適切な医療が受けられるように支援している。協力医の受診(往診)結果は家族に報告している。家族の希望の医療は家族同伴で行っている。	
20 (53)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ホーム利用時に本人・家族と十分に話し合っている。重度化が予想される場合は、本人・家族の思いを受け止め、出来るだけ早い段階から本人、家族、医師、看護婦、職員全体で話し合い、方針を共有している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	全職員が保護の徹底や確認をし合い、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけはしていない。記録物の取り扱いにも注意を払っている。	
22 (59)	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	散歩や買い物、歌など、一人ひとりのペースに合わせ、希望に添って支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は法人の施設から調理したものが配食され、盛り付けをしている。ホームでは毎日和え物を一品作っている。畑で採れた野菜で作ったり、ホットケーキを焼いたり、ケーキ作りなど行い、皆で作る楽しみの時間を工夫し、利用者の力量を見ながら支援している。食事は職員も支援しながら利用者と一緒に食べている。	
24 (64)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は、希望に添って支援しているが、だいたい14:00~16:00頃までに入浴している。入浴を嫌がる場合には無理強いをせず、時間をずらしたり、気分が変わるように関わったりしている。利用者の状況に応じて、シャワー浴、足浴、清拭を行なっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの生活歴や趣味を把握し、食事の準備や後片付け、畑作り、散歩、買い物など活躍できる場面作りや楽しみごとの支援をしている。音楽が好きな利用者の希望で、法人施設内で行なわれるコンサートや外部のコンサートに行っている。	
26 (68)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者の体調、様子や希望に応じて、散歩、買い物、ドライブなど支援している。水族館の見学、ふぐ祭り、サーカスなど市内のイベント参加など、外出支援を多く計画している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	拘束について施設内研修が行なわれ、全職員が正しく認識しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。かかりつけ医と相談しながら、薬を使わないケアを心がけている。	
28 (75)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、その日の状態を把握することで、日中(10時～16時)は鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。利用者が出たいときには、職員はそっと見守るようにし、いつでも同行できる体制をとっている	
29 (78)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	緊急連絡網は整備され、目のつく所に張ってある。ヒヤリはっと・事故報告を行い、対策を検討し、利用者一人ひとりの状態に合わせ安全確保に努めている。毎月法人全体で行なう事故対策委員会に担当者が出席し、リスクマネジメントの本部研修会に出席したり、勉強会を開催し事故防止に努めている。	
30 (79)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急対応マニュアルを作成している。急変や事故発生時の対応やAEDの使用法の講習や、訓練を行い、夜間の緊急対応のためにオンコール体制をとっている。	
31 (81)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防災マニュアルがあり、年2回消防署の協力の下に、建物内の法人の他のサービス部門と共に避難訓練をしている。避難経路の確認、消火器の取り扱い方など、火災や災害に備えた取り組みをしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬についての情報は整理され、全職員が薬について理解した上で、夜勤者が薬を準備し、日勤者が名前を確認しながら一回ずつ手渡しし、服用するまで見守っている。必要な情報は医師にフィードバックしている。	
33 (86)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後声かけを行い口腔の清潔保持に努めている。液体の口腔ケア品を使用している方もいる。歯ブラシ・義歯の清掃保管は利用者の力量に合わせて支援をしている。歯科衛生士の資格を持つ職員も配置されている。	
34 (87)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事の摂取量や飲水量が把握され、食が進むように、一人ひとりに合わせて支援をしている。ご飯だけが残った人にふりかけをかけたり、それぞれの方の食べ方に合わせて支援されていた。かかりつけ医の往診時に、状況報告を行なっている。	
35 (88)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成しており、取り決めに添って対応している。職員全員が対応できるように、時期に応じた研修を早めに行い、手洗いやうがいを励行している。シーツ交換、台所用品など定期的な清掃管理を行なっている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
36 (91)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	吹き抜けの中庭からの光は明るい環境をもたらし、庭で摘んできた季節の花を行け、絵画や装飾品を飾り、季節感や生活感など五感に働きかける工夫をしている。広い廊下やリビングにソファや畳敷きの台を置き、利用者同士で過ごしたり、独りになれたり、思い思いに過ごせるように配慮している。共用の空間は不快な音や匂いは無く、居心地の良い空間となっている。	
37 (93)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人や家族と話し合いながら、使い慣れた家具、ベッド、写真、ぬいぐるみなど持ち込み、本人が居心地よく過ごせるようにしている。仏壇を置き、毎日花の水替えをしている利用者もいる。また加湿器を各部屋に設置し、湿度管理にも努めている。	

# 自己評価書

## 【ホームの概要】

事業所名	グループホーム フロイデ彦島
所在地	下関市彦島西山町三丁目12番1号
電話番号	083-261-5082
開設年月日	平成 17 年 10 月 1 日

## 【実施ユニットの概要】 ( 4 月 1 日現在 )

ユニットの名称	ユニット1			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの 利用者数	9 名	男性 0 名	女性 9 名	
	要介護 1	0	要介護 4	2
	要介護 2	2	要介護 5	0
	要介護 3	5	要支援 2	0
年齢構成	平均 85.3 歳	最低 80 歳	最高 92 歳	

## 【自己評価の実施体制】

実施方法	全職員に自己評価書を配布し、各自記入してもらう。 それを集計しまとめる。
評価確定日	平成 21 年 4 月 30 日

## 【サービスの特徴】

ホームの理念である、「自分らしく 穏やかに 生きがいを 歓喜(よろこび)に」を根底に、その方らしい日々が送れるように支援しています。  
また、御家族の面会時などに御本人の近況をお伝えしたり、相談したりと、かかわりを多く持ち、入居者の希望や不安を早く見つけ、その方に合った援助をし、楽しく安心した生活ができるように努めています。  
また、各個人にあったニーズを考え、個々の対応が充実できるよう目指しています。

# 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		
2 (2)	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p><b>運営理念の明示</b> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		
4	<p><b>運営者や管理者の取り組み</b> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		職員から何か提案があれば、メリットやリスクを十分考慮したのち、どんどん実現していけるように努めたい。
5	<p><b>家族や地域への理念の浸透</b> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p><b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		ケアハウスやデイサービス利用者より顔なじみになれるような環境（一緒にお茶をするなど）を整えていきたい。
7 (3)	<p><b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		年に数回の機会だけではなく、月に1回程のペースで地域活動に参加できるようになりたい。
8	<p><b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自分自身の日頃のケアを見直し改善する機会であり、全職員で取り組むことにより、より良いサービスを提供できるように見直す機会である。	評価結果を皆で検討し、具体的改善に活かしていきたい。
10 (5)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	2ヶ月に1度開催しており、ホームでの出来事や取り組みについて写真や資料を用いて報告している。またその都度意見をいただいたら、サービスに活かせるよう取り組んでいる。	運営推進会議での内容は議事録を作成し、玄関に定時し、いつでも目を通せるようになっている。
11 (6)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町での行事には積極的に参加するようにしている。	
12	<b>権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	権利擁護や成年後見制度については社内研修で学ぶ機会があった。必要な方には、話し合い、活用してもらえよう支援している。	
13	<b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止法について回覧をし、全職員が周知できるように努めている。また常に意識をし、虐待という行為が見過ごされないように、行なわれないように注意・防止に努めている。	これからも常に意識をし虐待防止に努める。
4. 理念を実践するための体制			
14	<b>契約に関する説明と納得</b> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	書類に添いながら詳しく説明を行い、その都度不安・疑問点を尋ね、理解していただけるまで説明をしている。また作成したマニュアルのもとご家族へ説明、十分な説明を行い、納得・理解を得ている。	不安・疑問点について解消できるように、わかりやすい説明ができるようにしたい。
15	<b>運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者が気軽に話ができるようにし、その意見をしっかり反映させるよう努めている。また、御家族向けに聞信箱を設置している。苦情処理窓口も設置している。	少しの意見でも拾い上げ、サービスの質の向上に努めていきたい。
16 (7)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会時に家族に利用者日々の暮らしぶり・健康状態を個別ニーズに合わせて報告している。金銭面では毎月1階出納帳の確認のサインを頂いている。家族会でも職員の移動等については報告している。緊急時は電話報告をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<b>情報開示要求への対応</b> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じて いる(開示情報の整理、開示の実務等)。		できるだけ多い情報を得て、いざ求められ た時に速やかに対応できるようにしたい。
18 (8)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに 外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映さ せているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び 職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の 手続きを明確に定めている。		
19	<b>運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提 案を聞く機会を設け、反映させている。		
20 (9)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応が できるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保す るための話し合いや勤務の調整に努めている。		
21 (10)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支 援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に 抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージ を防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するた めの計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確 保や、働きながらトレーニングしていくことを進めてい る。		
23	<b>職員配置への取り組み</b> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配 置することにより、多様な利用者の暮らしに対応して いる。		
24 (12)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する 機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取 り組みをしている。		相互訪問等の活動を行ない、ネットワーク 作りを強化し、サービスの質の向上を目指 したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		それぞれの意見を聞ける環境づくりをしている。
26	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	<b>職員の業務に対する適切な評価</b> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		本人が安心感を持って利用できるように尽くしている。
29	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		不安なことなどは気軽に話せるような環境づくりを行なう。
30	<b>初期対応の見極めと支援</b> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		本人と家族、両方の話しをよく聞き、両方が安心できるよう支援を考えるように努めている。
31 (13)	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		家族の要望に沿うように努力し、本人がホームの雰囲気を見学していただくよう御家族に促している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		得意なことは、職員に限らず皆に教えられる場をつくる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	<b>本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族との連絡や意見交換を密にし、喜怒哀楽をともにできるよう、一緒に本人を支えているという意識をもち続ける。		
34	<b>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</b> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	本人と家族の関係を理解し、いままでと変わらぬ関係が続いていくように支援している。		
35	<b>馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会や外出など気楽にして、馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている、家族にバックグラウンドを尋ねている。会話の中で話題に出している。		個人個人の時間に合わせ馴染みの場所等に外出したい。
36	<b>利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	気の合う人など一緒に行動できるように努める、利用者の一人ひとりが孤立しないように努めている。		職員が利用者一人ひとりの性格等を把握する。
37	<b>関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	次の施設など紹介し施設の職員同士情報交換する。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	<b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや生活パターンの把握に努め、本人本位の暮らしを提供できるように努めている。		少しの訴え等も見逃さないように努める。
39	<b>これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	経過など家族やケアマネなどからよく話しを聞き把握する。		細かく情報を得る。
40	<b>暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの過ごし方をよく観察する、職員間での伝達、ふれあい記録への記載等により把握するよう努めている。また個人の有する力を活用できるように日々の生活を組み立てている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	<b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	各担当制にて介護計画を作成し、皆でカンファレンスし、また家族にも説明を行い、署名、捺印を頂いている。	
42 (17)	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	変化が生じた場合は家族・関係者と話し合い、現状に即したケアプラン作成をしている。	
43	<b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ふれあい記録という個別の様式に記入し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	<b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	いつでも、多機能を活かせるよう準備し、要望があれば即座し支援できるようにしている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	各協力機関と連携しながら、本人の意向に応えられるように支援している。	
46	<b>事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	入居者のケアに配慮しつつ見学・研修・ボランティア等の受け入れを行なっている。	
47	<b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	機会があれば支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<b>地域包括支援センターとの協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	<b>認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	<b>看護職との協働</b> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	<b>早期退院に向けた医療機関との協働</b> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	<b>重度化や終末期に向けたチームでの支援</b> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	<b>住み替え時の協働によるダメージの防止</b> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援  1. その人らしい暮らしの支援  (1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	尊重する姿勢で一人ひとりに接し、情報は目にふれない所に保管している。	
57	<b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人が出来る事、得意なことをしてもらい、またその力を引き出せるよう支援している。自力を促すように声かけ見守りをしている。	
58	<b>“できる力”を大切にされた家事への支援</b> 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	家事は職員が影になり、利用者に活躍してもらえるよう支援している。「ありのまま」を大切にしている。	
59 (22)	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースで生活してもらおうと努めているが、時として(行事等ある場合)職員の都合となる事もある。	もっと一人ひとりのペースを大切にされた支援をしていきたい。
に			
60	<b>身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	基本は本人希望の美容院に行ってもらい、または、月1回の移動美容室を利用してもらう。	
61 (23)	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者と職員と一緒に盛り付け・配膳・片付けを行なう。食事作りは和え物作りのみ。盛り付け果物きりは分け等もおこなう。	
62	<b>本人の嗜好の支援</b> 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	本人希望のものを楽しめるよう支援するようにしている。またティータイムでは、自分で飲みたいものを選んでもらい、自分で入れていただくよう促している。	
63	<b>気持ちのよい排泄の支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりにあった時間に誘導などして排泄の支援をする、失敗を未然に防ぐようにしている、紙パンツ、布パンツの使い分けをしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一人ひとりの希望やタイミングにあわせて入浴を楽しめるよう支援していきたいが、入浴時間帯に関してはホーム時間割にあわせて行なっている。		入浴時間(湯につかる時間等)はなるべく本人の意思に任せている。(無理の無い程度に)
65	<b>安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活習慣や状況に応じて自由に休息できるように支援している、個々の時間に合わせて支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの生活歴や趣味を把握し、楽しみながら活躍してもらえるような場面作りをしている(家事・趣味・散歩・ドライブ等、一人ひとりにあった気晴らしの支援をしている)。		
67	<b>お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人希望で自由に買物などしてもらい、金銭管理に関しては御家族との相談の上、御本人の状態に合わせて行なっている。また、買物に行った際は本人に支払いをしてもらうよう支援している。		
68 (26)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩やドライブなど本人希望にそって出かける支援をしている。		
69	<b>普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族や職員と出かけられる機会を設け、公共施設(水族館・庭園など)への日帰り旅行へ家族とともに出かけている。		
70	<b>電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自由に出来るよう支援している、手紙は頂くことはあるが、返事を書いて出すことはほとんどない。返事をだせるような環境づくりをしていきたい。		電話でのやり取りは必要に応じて行なっている。今後は手紙のやり取りも行なっていきたい。
71	<b>家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問は自由に出来るようになってきている。居室内での面会が多いが、天気のいい時はテラス等での面会も勧めている。		
72	<b>家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	本人居室や、別室(同施設内にあり)にて宿泊できる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73 <b>家族が参加しやすい行事の実践</b> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	誕生日会や夏祭まつり、ホーム外行事等御家族の参加を呼びかけている。		なるべく多く家族の参加がしやすい行事計画をたて入居者と一緒に参加してもらいたい。
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27) <b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	施設内研修にて(スピーチロック・ドラッグロック)の勉強をしており、抑制や、拘束のないケアに日頃から取り組んでいる。		
75 (28) <b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室は鍵は無く、玄関に関しては時間を決めて開けている。		利用者が外に出たいときに自由に出てもらっている。職員はそっと見守るようにしている。
76 <b>利用者の安全確認</b> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	プライバシーに配慮しながら常に所在や様子を把握できるよう努めている。		
77 <b>注意の必要な物品の保管・管理</b> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	はり・はさみ等の危険物は預かり、一箇所にまとめて保管している。また取り除くのではなく危険を防ぐという意味でm視野から外すように整備をしている。		
78 (29) <b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりの状態にあつたりくみをしている、また、月一回事故対策委員会担当者に出席し事故防止に努め、勉強会や研修等で学んでいる。		
79 (30) <b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	訓練を行っている、応急対応等の講習を受けている、オンコール体制をとっている。		
80 <b>再発防止への取り組み</b> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	ヒヤリハットとインシデント、事故報告書があり、困難ケースに関しては事故対策委員会にて報告し、改善策を講じている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	<b>リスク対応に関する家族等との話し合い</b> 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	<b>体調変化の早期発見と対応</b> 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	<b>便秘の予防と対応</b> 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86 (33)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87 (34)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	<b>食材の管理</b> 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	<b>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関はいつも出入り自由になっている。	
91 (36)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	窓が広く明るい環境になっていて季節の花がいくつもあり、工夫されている。トイレ内・外と二重になっている、各居室入り口等にも季節にあった飾りを入居者と一緒に作成し、各居室や玄関リビング等に飾り、季節感を出し、五感に働きかける工夫をしている。	
92	<b>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居場所づくりの工夫をしている、気のあう入居者同士で思い思い過ごせるように環境・空間には配慮している。リビング・廊下に畳を置き、気のあった入居者同士ですごせたり、独りになれたり出きるように配慮している。	
93 (37)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今まで使用していた、使いなれた家具や食器を使用してもらっている。	
94	<b>換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気や温度調節はこまめに行なっている、起床時、清掃時には必ず換気している。利用者の体調・状況に応じて行なっている。また加湿器を各部屋に設置し、湿度管理にも努めている。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<b>身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	個々の身体能力に合わせ、また活かせるように工夫している。	
96	<b>わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	本人がわかるような声かけや、環境整備をしている。	
97	<b>建物の外周や空間の活用</b> 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダ・外庭などを利用し、楽しんでもらえるよう活かしている。天候をみてテラスや、外庭などで、ティータイムやレクを行なっている。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="checkbox"/> 毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	<input type="checkbox"/> 家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	<input type="checkbox"/> 少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない

# 自己評価書

## 【ホームの概要】

事業所名	グループホーム フロイデ彦島
所在地	下関市彦島西山町三丁目12番1号
電話番号	083-261-5082
開設年月日	平成 17 年 10 月 1 日

## 【実施ユニットの概要】 ( 4 月 1 日現在 )

ユニットの名称	ユニット2			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの 利用者数	9 名	男性 0 名	女性 9 名	
	要介護 1	2	要介護 4	3
	要介護 2	1	要介護 5	0
	要介護 3	3	要支援 2	0
年齢構成	平均 83.3 歳	最低 70 歳	最高 92 歳	

## 【自己評価の実施体制】

実施方法	全職員に自己評価書を配布し、各自記入してもらう。 それを集計しまとめる。
評価確定日	平成 21 年 4 月 30 日

## 【サービスの特徴】

ホームの理念である、「自分らしく 穏やかに 生きがいを 歓喜(よろこび)に」を根底に、その方らしい日々が送れるように支援しています。  
また、御家族の面会時などに御本人の近況をお伝えしたり、相談したりと、かわりを多く持ち、入居者の希望や不安を早く見つけ、その方に合った援助をし、楽しく安心した生活ができるように努めています。  
また、各個人にあったニーズを考え、個々の対応が充実できるよう目指しています。

# 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	<b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	「自分らしく 穏やかに 生きがいを 歓喜(よろこび)に」と言う理念を皆で考え、つくりあげている。	
2 (2)	<b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ケアプランや日々の活動内容も理念に基づき、「自分らしさ」を大切にし、取り組んでいる。	
3	<b>運営理念の明示</b> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。	事務所内に大きく掲示してある。また、会議や勉強会などでも理念に基づいた考え方で進行していけるよう示している。	
4	<b>運営者や管理者の取り組み</b> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。	どうすればサービスの質の向上に繋がるのか、職員全員と共に考えながら取り組んでいる。	職員から何か提案があれば、メリットやリスクを十分考慮したのち、どんどん実現していけるように努めたい。
5	<b>家族や地域への理念の浸透</b> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ホーム便りをはじめ、各文書で伝えている。	
2. 地域との支えあい			
6	<b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。	日々の館内外散歩等では同施設内の入居者、地域住民に挨拶や話しをしてコミュニケーションをとり、会話する機会を設けている。また、気軽に立ち寄れる雰囲気作りに努めている。	ケアハウスやデイサービス利用者より顔なじみになれるような環境(一緒にお茶をするなど)を整えていきたい。
7 (3)	<b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	施設内での行事(夏祭・クリスマス会等、毎月のコンサート等)に地域の方々も参加できるように情報を発している。また、地域活動(祭り・文化祭等)に参加するようにしている。	年に数回の機会だけではなく、月に1回程のペースで地域活動に参加できるようになりたい。
8	<b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	月に一度各会議(ユニット会議・全体会議)を設け話し合っている。また運営推進会議を行なっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自分自身の日頃のケアを見直し改善する機会であり、全職員で取り組むことにより、より良いサービスを提供できるように見直す機会である。	評価結果を皆で検討し、具体的改善に活かしていきたい。
10 (5)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	2ヶ月に1度開催しており、ホームでの出来事や取り組みについて写真や資料を用いて報告している。またその都度意見をいただいたら、サービスに活かせるよう取り組んでいる。	運営推進会議での内容は議事録を作成し、玄関に定時し、いつでも目を通せるようになっている。
11 (6)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町での行事には積極的に参加するようにしている。	
12	<b>権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	権利擁護や成年後見制度については社内研修で学ぶ機会があった。必要な方には、話し合い、活用してもらえよう支援している。	
13	<b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止法について回覧をし、全職員が周知できるように努めている。また常に意識をし、虐待という行為が見過ごされないように、行なわれないように注意・防止に努めている。	これからも常に意識をし虐待防止に努める。
4. 理念を実践するための体制			
14	<b>契約に関する説明と納得</b> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	書類に添いながら詳しく説明を行い、その都度不安・疑問点を尋ね、理解していただけるまで説明をしている。また作成したマニュアルのもとご家族へ説明、十分な説明を行い、納得・理解を得ている。	不安・疑問点について解消できるように、わかりやすい説明ができるようにしたい。
15	<b>運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者が気軽に話ができるようにし、その意見をしっかり反映させるよう努めている。また、御家族向けに聞信箱を設置している。苦情処理窓口も設置している。	少しの意見でも拾い上げ、サービスの質の向上に努めていきたい。
16 (7)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会時に家族に利用者日々の暮らしぶり・健康状態を個別ニーズに合わせて報告している。金銭面では毎月1階出納帳の確認のサインを頂いている。家族会でも職員の移動等については報告している。緊急時は電話報告をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17 <b>情報開示要求への対応</b> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	今までには情報開示をもとめられたことはないが、ホーム玄関に写真・情報書類を掲示し誰でも自由に見れるようにしている。		できるだけ多い情報を得て、いざ求められた時に速やかに対応できるようにしたい。
18 (8) <b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	重要事項説明書に苦情処理窓口、第三者委員、市役所保険課、国民健康保険団体連合会の連絡先を記載している。		
19 <b>運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各会議(ユニット会議、全体会議等)で意見を聞いたり、日々の中で常に聞く機会を設けている。		
20 (9) <b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	必ず日中職員3名確保できるように調整できている。また、他部署に協力を要請できる環境がある。オルコール体制も整っている。		
21 (10) <b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	できるだけ移動を少なくして利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11) <b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	人づくり財団の研修を受ける機会があったり、法人内研修に参加、または発表する機会をもうけ、日々成長していけるような環境を整えている。		
23 <b>職員配置への取り組み</b> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	20代から60代の職員を配置し、それぞれの特性を活かし利用者の暮らしに対応できるように努めている。		
24 (12) <b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	研修等に参加したり、グループホーム連絡会に参加することで、同業者である他施設の方々と交流をもっている。		相互訪問等の活動を行ない、ネットワーク作りを強化し、サービスの質の向上を目指したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		それぞれの意見を聞ける環境づくりをしている。
26	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	<b>職員の業務に対する適切な評価</b> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		本人が安心感を持って利用できるように尽くしている。
29	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		不安なことなどは気軽に話せるような環境づくりを行なう。
30	<b>初期対応の見極めと支援</b> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		本人と家族、両方の話しをよく聞き、両方が安心できるよう支援を考えるように努めている。
31 (13)	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		家族の要望に沿うように努力し、本人がホームの雰囲気を見学していただくよう御家族に促している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		得意なことは、職員に限らず皆に教えられる場をつくる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	<b>本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族との連絡や意見交換を密にし、喜怒哀楽をともにできるよう、一緒に本人を支えているという意識をもち続ける。		
34	<b>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</b> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	本人と家族の関係を理解し、いままでと変わらぬ関係が続いていくように支援している。		
35	<b>馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会や外出など気楽にして、馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている、家族にバックグラウンドを尋ねている。会話の中で話題に出している。		個人個人の時間に合わせ馴染みの場所等に外出したい。
36	<b>利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	気の合う人など一緒に行動できるように努める、利用者の一人ひとりが孤立しないように努めている。		職員が利用者一人ひとりの性格等を把握する。
37	<b>関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	次の施設など紹介し施設の職員同士情報交換する。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	<b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや生活パターンの把握に努め、本人本位の暮らしを提供できるように努めている。		少しの訴え等も見逃さないように努める。
39	<b>これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	経過など家族やケアマネなどからよく話しを聞き把握する。		細かく情報を得る。
40	<b>暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの過ごし方をよく観察する、職員間での伝達、ふれあい記録への記載等により把握するよう努めている。また個人の有する力を活用できるように日々の生活を組み立てている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	<b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	各担当制にて介護計画を作成し、皆でカンファレンスし、また家族にも説明を行い、署名、捺印を頂いている。	
42 (17)	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	変化が生じた場合は家族・関係者と話し合い、現状に即したケアプラン作成をしている。	
43	<b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ふれあい記録という個別の様式に記入し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	<b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	いつでも、多機能を活かせるよう準備し、要望があれば即座し支援できるようにしている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	各協力機関と連携しながら、本人の意向に応えられるように支援している。	
46	<b>事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	入居者のケアに配慮しつつ見学・研修・ボランティア等の受け入れを行なっている。	
47	<b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	機会があれば支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<b>地域包括支援センターとの協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	<b>認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	<b>看護職との協働</b> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	<b>早期退院に向けた医療機関との協働</b> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	<b>重度化や終末期に向けたチームでの支援</b> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	<b>住み替え時の協働によるダメージの防止</b> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援  1. その人らしい暮らしの支援  (1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	尊重する姿勢で一人ひとりに接し、情報は目にふれない所に保管している。	
57	<b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人が出来る事、得意なことをしてもらい、またその力を引き出せるよう支援している。自力を促すように声かけ見守りをしている。	
58	<b>“できる力”を大切にされた家事への支援</b> 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	家事は職員が影になり、利用者に活躍してもらえるよう支援している。「ありのまま」を大切にしている。	
59 (22)	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースで生活してもらおうと努めているが、時として(行事等ある場合)職員の都合となる事もある。	もっと一人ひとりのペースを大切にされた支援をしていきたい。
に			
60	<b>身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	基本は本人希望の美容院に行ってもらい、または、月1回の移動美容室を利用してもらう。	
61 (23)	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者と職員と一緒に盛り付け・配膳・片付けを行なう。食事作りは和え物作りのみ。盛り付け果物きりは分け等もおこなう。	
62	<b>本人の嗜好の支援</b> 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	本人希望のものを楽しめるよう支援するようにしている。またティータイムでは、自分で飲みたいものを選んでもらい、自分で入れていただくよう促している。	
63	<b>気持ちのよい排泄の支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりにあった時間に誘導などして排泄の支援をする、失敗を未然に防ぐようにしている、紙パンツ、布パンツの使い分けをしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一人ひとりの希望やタイミングにあわせて入浴を楽しめるよう支援していきたいが、入浴時間帯に関してはホーム時間割にあわせて行なっている。		入浴時間(湯につかる時間等)はなるべく本人の意思に任せている。(無理の無い程度に)
65	<b>安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活習慣や状況に応じて自由に休息できるように支援している、個々の時間に合わせて支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの生活歴や趣味を把握し、楽しみながら活躍してもらえるような場面作りをしている(家事・趣味・散歩・ドライブ等、一人ひとりにあった気晴らしの支援をしている)。		
67	<b>お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状況に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人希望で自由に買物などしてもらい、金銭管理に関しては御家族との相談の上、御本人の状態に合わせて行なっている。また、買物に行った際は本人に支払いをしてもらうよう支援している。		
68 (26)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩やドライブなど本人希望にそって出かける支援をしている。		
69	<b>普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族や職員と出かけられる機会を設け、公共施設(水族館・庭園など)への日帰り旅行へ家族とともに出かけている。		
70	<b>電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自由に出来るよう支援している、手紙は頂くことはあるが、返事を書いて出すことはほとんどない。返事をだせるような環境づくりをしていきたい。		電話でのやり取りは必要に応じて行なっている。今後は手紙のやり取りも行なっていきたい。
71	<b>家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問は自由に出来るようになっている。居室内での面会が多いが、天気のいい時はテラス等での面会も勧めている。		
72	<b>家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	本人居室や、別室(同施設内にあり)にて宿泊できる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73 <b>家族が参加しやすい行事の実践</b> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	誕生日会や夏祭まつり、ホーム外行事等御家族の参加を呼びかけている。		なるべく多く家族の参加がしやすい行事計画をたて入居者と一緒に参加してもらいたい。
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27) <b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	施設内研修にて(スピーチロック・ドラッグロック)の勉強をしており、抑制や、拘束のないケアに日頃から取り組んでいる。		
75 (28) <b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室は鍵は無く、玄関に関しては時間を決めて開けている。		利用者が外に出たいときに自由に出てもらっている。職員はそっと見守るようにしている。
76 <b>利用者の安全確認</b> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	プライバシーに配慮しながら常に所在や様子を把握できるよう努めている。		
77 <b>注意の必要な物品の保管・管理</b> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	はり・はさみ等の危険物は預かり、一箇所にまとめて保管している。また取り除くのではなく危険を防ぐという意味でm視野から外すように整備をしている。		
78 (29) <b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりの状態にあったとくみをしている、また、月一回事故対策委員会担当者に出席し事故防止に努め、勉強会や研修等で学んでいる。		
79 (30) <b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	訓練を行っている、応急対応等の講習を受けている、オンコール体制をとっている。		
80 <b>再発防止への取り組み</b> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	ヒヤリハットとインシデント、事故報告書があり、困難ケースに関しては事故対策委員会にて報告し、改善策を講じている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的な避難訓練実施により避難方法等身につけている。	
82	<b>リスク対応に関する家族等との話し合い</b> 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	転倒リスクがある等、個別に応じて家族には説明はしている。	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	<b>体調変化の早期発見と対応</b> 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々の暮らしの中で常に見守り、急変等には速やかに対応する、日々のバイタルチェックやふれあい記録等で常に早期発見できるようにしている。また、特変時には家族へ連絡、受診依頼している。	
84 (32)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の処方日は、用法・用量について確認し、服薬支援を行っている。処方変更等については電話・回診時におこなっている。回診時には経過報告している。また、処方変更等については、御家族の意見をうかがうようにしている。	
85	<b>便秘の予防と対応</b> 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	毎日の状態を記録にして理解・把握しやすいように工夫している。また日々の運動量・水分量にも気をつけている。食物繊維等、腸に影響のあるものの摂取を促す工夫も行っている。	
86 (33)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎日義歯消毒を行ない、職員にて一定箇所保管している。当日の献立内容により臨機応変に消毒行なう。歯ブラシは介助必要な方は行なっている。歯ブラシ使用困難な方には液体の口腔ケア品で代行している。	
87 (34)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日の食事摂取量・水分量を記録して確保できるよう支援している。また個人に合わせて、量も調節している。	
88 (35)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染マニュアルを作成している。	
89	<b>食材の管理</b> 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食中毒の予防にアルコール消毒などし管理に努めている、調味料等の日付をチェックし、台所、調理器具はいつも清潔保ち布巾等ハイター消毒を行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	<b>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関はいつも出入り自由になっている。	
91 (36)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	窓が広く明るい環境になっていて季節の花がいくつもあり、工夫されている。トイレ内・外と二重になっている、各居室入り口等にも季節にあった飾りを入居者と一緒に作成し、各居室や玄関リビング等に飾り、季節感を出し、五感に働きかける工夫をしている。	
92	<b>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居場所づくりの工夫をしている、気のあう入居者同士で思い思い過ごせるように環境・空間には配慮している。リビング・廊下に畳を置き、気のあった入居者同士ですごせたり、独りになれたり出きるように配慮している。	
93 (37)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今まで使用していた、使いなれた家具や食器を使用してもらっている。	
94	<b>換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気や温度調節はこまめに行なっている、起床時、清掃時には必ず換気している。利用者の体調・状況に応じて行なっている。また加湿器を各部屋に設置し、湿度管理にも努めている。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<b>身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	個々の身体能力に合わせ、また活かせるように工夫している。	
96	<b>わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	本人がわかるような声かけや、環境整備をしている。	
97	<b>建物の外周や空間の活用</b> 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダ・外庭などを利用し、楽しんでもらえるよう活かしている。天候をみてテラスや、外庭などで、ティータイムやレクを行なっている。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="checkbox"/> 毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	<input type="checkbox"/> 家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	<input type="checkbox"/> 少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない